

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO委員会

さんぽう

# 三方よし

## 第24号

---

### 2003/3

#### CONTENTS

現代に息づく近江商人魂 その⑥ ..... 2~4	ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション2002 ..... 6~7
(株)日吉 代表取締役 鈴木稔彦氏	最優秀決定
三方よし理念講座開催 ..... 5	てんびん棒 ..... 8



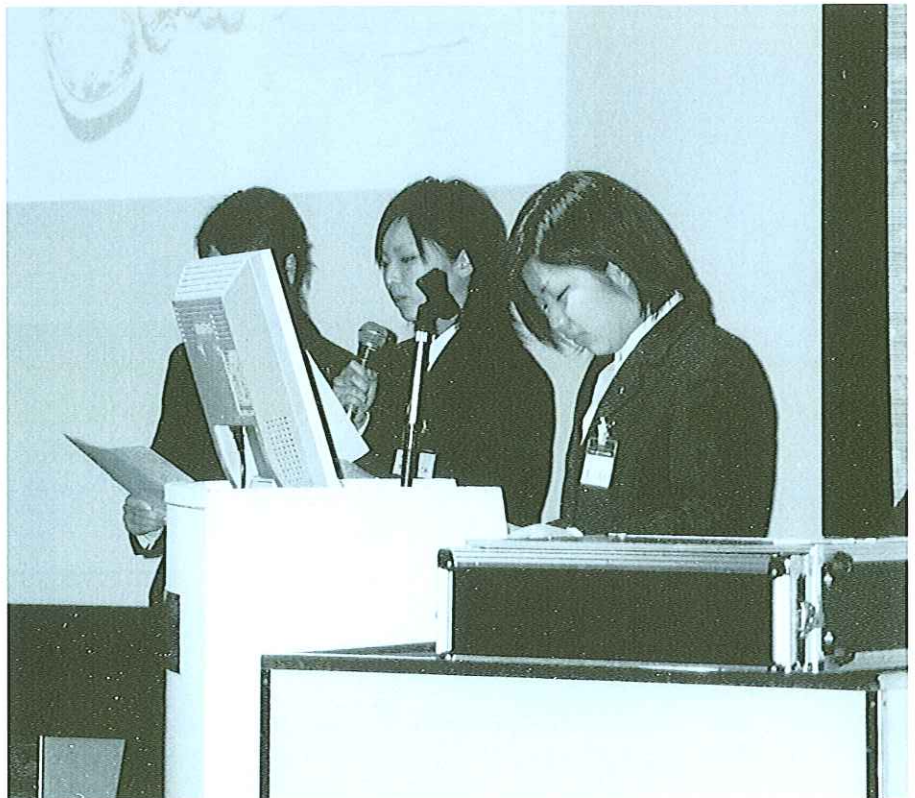
審査員の先生方



表彰者勢揃い



発表のようす



発表する高校生チーム



展示された事業計画

三方よし「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし、買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を主題としている。



現代に息づく近江商人魂

【その⑥】

# 企業とは社会のもの、 「社会立社・技術立社」を社是に社会貢献を

株式会社日吉 代表取締役 鈴木 稔彦氏



近江八幡市北之庄にある株式会社日吉の社屋。会社内からは水郷が一望できる。

一九五五年創業。ゴミやし尿の収集から始まり、今ではダイオキシンや超微量化学物質、バイオテクノロジーなど環境データの計測や分析、上下水道維持管理や薬品の販売製造など Think of ecology をテーマに多分野に事業を展開している「日吉」は、社会貢献に積極的に取り組む姿勢が評価され、昨春秋、埼玉県が創設した「第一回沢栄一賞」を受賞。「どちらかといえば商人ではなくわたしは技術屋」と称する鈴木社長だが、近江商人の「三方よし」の理念を見事に実践している。「社会が必要としない会社は存在しない。」と語る鈴木社長に成長する企業の秘訣を聞いてみた。

## ゴミ収集業から 環境整備保全の総合企業に

「夢がないとダメ。それを実現に向けて計画して実行する。そして反省。反省すればそこからまた新しい夢が生まれるのです。」にこやかに語る鈴木氏が、近江八幡市の日吉（旧社名日吉更生社）に入社したのは約四〇年前。当時はゴミやし尿の収集運搬が主たる業務で、鈴木氏も八年ぐらい現業に就いた。「し尿というのは複雑な有機化合物。言わばバイオの世界なんですよ」。浄化槽の仕事から水処理という衛生工学に関わる。独学で勉強を重ね、環境計量士、作業環境測定士、浄化槽管理士、下水道維持管理技術者、放射線取扱主任者等々、二〇種以上の



広報の窓口となって、様々な会社に講演活動する三谷取締役総務部長。応接室の壁一面には数々の資格証書が掛けられている。

資格を取得した。「資格を取得することでできる仕事も増えて来るんですよ。『仕事は法律の中にある』からです。先代からそう教えられたことを、そのま



先端技術で環境測定・分析が行われている



鈴木 稔彦氏プロフィール

株式会社日吉 代表取締役

1937年、愛知県生まれ。1965年、前身である(南)日吉更生社入社。分析室長、専務取締役を経て1988年社長就任。1994年、(株)日吉に改組。滋賀県環境整備事業協同組合専務理事、(社)滋賀県計量協会理事、(社)全国環境保全推進連合会理事、技能士国家検定(化学分析部門)主席検定員等を歴任。社員200人。

「近江の生まれではないし、商  
人でもなく技術屋」と言いなが  
ら、鈴木社長は「三方よし」の  
理念を見事に実践している。  
「社会が必要としない会社は存  
在しない。会社が為すことは  
すべて社会の役に立たなくては  
ならないんです」。



子供たちが下絵を描いた日吉のゴミ収集車。新車購入に合わせて、八幡小の4年生に自然と環境をテーマに描いてもらっている。毎年1台ずつゴミ収集車に絵が描かれていく。

「実践してはるわけですがね」。  
環境問題の広がりとともに色々  
な法律や規制が生まれる。先へ  
先へと目を向けていくうちに、  
日吉は環境保全の総合企業とし  
て成長した。最近では、遺伝子  
組み換え細胞を用いたダイオキ  
シン生化学試験(CALDUX<sup>TM</sup>)や  
ケイラックスR)や食品、環境  
ホルモン、シックハウス症候群、  
土壌汚染調査など最先端技術を  
駆使して社会問題となっている  
物質の分析を主に手がけている。

## 事業や企業の成長は 新たな創造から生みだされる

「会社は社員のものであると同  
時に社会のもの。だから、会社  
をつぶしてはいけないと思っ  
てるんですよ。五〇年後、一〇〇  
年後に生き残る会社にするため  
には、常に新しい事にチャレン  
ジしないとイケない。だから  
『夢』を持ちなさいと。そして  
その実現のために技術の向上は

欠かせないんです」。資格取得  
と同時に次々と世界が広がって  
いったという鈴木氏。社員への  
新年の挨拶には「事業や企業の  
成長は従来の延長線上に約束さ  
れているのではなく、新たな創  
造から生みだされるものです。  
創造には夢が必要です」と述べ  
ている。

## 社会が必要としない会社は 存在しない

地球温暖化現象など環境問題  
には国境がないと、一九八九年  
より通産省の外郭団体AOTS  
(海外技術者研修協会)、AIE  
SEC(国際経済  
商学生協会)、滋  
賀県などを通じ  
て、アジアを中心  
に技術研修生の受  
け入れを始めた。  
環境保全は最先端  
技術であり、協力  
する企業が少なく  
中、当事国での環  
境セミナーに社員  
を講師として派遣  
したり、その後の  
支援にも積極的に  
取り組んでいる。  
特にインドとの交  
流は深く、基金を  
設け毎年環境スピ

ーチコンテストを行い優勝者を  
日本に招いて、環境学習の機会  
を作っている。  
また、地元での環境教育にも  
熱心だ。一九九〇年から、子供  
たちにゴミ問題を教えるために  
と、地元八幡小学校の先生がゴ  
ミ収集車に乗ることに協力。実  
際のゴミ収集体験をもとにした  
授業は子供たちの意識を変え、  
毎年恒例となった。それだけで  
なく市内の各小学校から環境学

この一〇年で日吉が招いた留学生は約二〇人。現地には同窓会もでき支援活動の基盤となっている。



日吉が基金を出して開いているインドでの環境スピーチコンテスト表彰風景。



環境スピーチコンテストで表彰された学生は、日吉が留学生として日本に招いている。

習の出前授業も依頼される。「子供たちはストリートに感じてくれます。家に帰ってお母さんにゴミの出し方を注意してみたいですよ」。環境問題は次の時代を生きる子供たちにも重要な課題だ。他にも、大学の学外研修に協力するなど産官学共同研究にも積極的に取り組んでいる。

### 社会貢献は技術の向上があつてこそ信頼される

これらの社会貢献が認められて、昨年十一月、埼玉県が設立する「渋沢栄一賞」を受賞した。渋沢栄一は明治時代に銀行経営や多くの企業の誕生に関わった近代経済の父と呼ばれた人であり、一方では経済活動から得た利益を社会福祉や教育に生かしたと言われる。「ありがたいことです。小さな会社でも国際貢献ができて、それを認めてもらえた。でも、社会に役に立つ会社として信頼されるためには、技術の裏付けは絶対必要だと思つています。『社会立社・技術立社』が大切なんです。バブル期に踊らされることなく、技術の向上と技術者の育成、環

境教育に積極的に取り組んできた「日吉」。夢を持つて創造するところに会社の発展があり、技術力が社会貢献につながるのである。「じゃんけんて言うところもチョコキもパーも、それぞれ強い面と弱い面を持ち合わせて上も下もない。それと同じで私の場合は多項式で考える。そうすればみんながトクをするような方程式が、どんな場合にも応用できると思つていま

### 渋沢栄一賞

埼玉県深谷市出身で近代経済社会の父と呼ばれる渋沢栄一（一八四〇—一九三二）の精神を継承するために埼玉県が本年創設。経済活動の利益を社会福祉や教育などに生かした渋沢にならい、社会貢献活動が顕著で従業員数がおおむね三百人以下の経営者に贈られる。二〇〇二年一月に第一回受賞者が選ばれた。受賞者は鈴木稔彦氏のほか、愛知県、栃木県の経営者が選ばれ、それぞれ中国の教育支援や障害者雇用への貢献が評価された。



毎年長浜で開かれる環境ビジネスメッセでの出店風景。日吉は1955年の創業以来環境保全事業を総合的に手掛ける。

す」。鈴木氏の話は単純明快だ。技術者が実践する「三方よし」の理念に現代の近江商人の知恵と新たな商業の神髄を感じさせられた。

# 「三方よし」経営理念講座開催

## 初の企画——和やかな座卓が好評！！

「三方よし」の理念を実際の暮らしの中で考えてみようという「三方よし経営理念講座」をそれぞれのテーマに関連した商家や町屋で講演と交流会がNPO法人「三方よし研究所」とAKINDO委員会との協働により開催された。本年は、初めての試みとして講師の方に縁が深い会場で、しかも座卓という和やかな雰囲気の中、生活の中での「三方よし」をともに考えてみた。

### 住と三方よし

#### ヴォーリズ建築と三方よし

講師 石井和浩氏  
(丹建築設計事務所 代表)

近江八幡で建築設計事務所を運営する石井和浩氏、県内をはじめ各地のヴォーリズ建築の研究・保存活動を展開するNPO法人「一粒の会」の代表を務める石井氏は、ヴォーリズ建築の特色を豊富なスライドを交えて紹介。建築関係の方の参加が多く専門的な話題が中心となった。「一粒の会」の事務所は今回の会場「酒遊館」に隣接するヴォーリズが設計したかつての郵便局をリニューアルして使っていることから、事前の見学も楽しむ人が多かった。

とき 平成十四年十月五日(日)  
ところ 近江八幡市「酒遊館」



### 食と三方よし

#### 私の物差し みんなのものさし

講師 鳥居静夫氏  
(佃豆蔵 代表取締役)

大津市の本店をはじめ各地で惣菜の店を展開する鳥居氏は、「満足想像経営」を提唱し、事業の利益の一部を、地元小学校や福祉施設に寄付している。誰もが持っている自分のモノサシではあるが、みんなそれぞれ異なったモノサシを使おうとするとところに難しさがあり、またそれが社会なのであるという実験からの話に説得力があった。まさに独自の経営哲学と「豆藤流」というユニークな取組が紹介された。

とき 平成十四年十一月九日(日)  
ところ 大津市「町づくり大津百町館」



### 衣と三方よし

#### 旧来の呉服卸しからの変革

講師 塚本喜左衛門氏  
(塚本商學園代表取締役社長)

五個荘町金堂の本宅は普段は、開放されることが少ないので、地元の方の参加も多かった。出席された地元の方からは塚本さんが五個荘町や近江商人に寄せる熱い思い感謝の気持ち一杯で嬉しいとの話があった。軽妙で柔らかい話しぶりとは裏腹に厳しい現実の状況の話題にもふれながら、自らを受けた教育のようすは、まさに近江商人教育の神髄を聞いたようであった。「積善の家に余慶有り」の額がさりりと光る会場は秀逸であった。

とき 平成十四年十二月七日(土)  
ところ 五個荘町金堂  
「塚本 喜左衛門邸」



### 近江商人の金言名句(完)

創刊以来、近江商人が残した家訓や店則などの一端を紹介してきたが、とても言い得る物ではなかった。AKINDO委員会では、本誌のほかに家訓カレンダーなどの制作も試みたが、いずれも端的に言い表すことは困難な作業であった。「近江商人の金言名句」を著した小倉栄一郎氏でさえ、「個々に検討して共通性がみられたが、商人の系譜や時代によって、表現が同じでもその含意は異なる。言葉の意味を文理的に解釈するだけでは、その裏に潜む理念はわからない」と述べられている。この共通性が「三方よし」であり「利真於勤」、そして権力と結託しない商人としての姿勢ではなかったろうか。昨今「三方よし」が一人歩きしている感があるが、近江商人の商いの根底に、利益をねらう活動ではなく「利は余沢」という認識があったことを忘れてはいけない。さらにその裏付けとなる信仰の心がある。奥深い先人の言葉については、いずれ深く追求できる機会を待ちたい。

# 「三方よし」ビジネスに挑んだ若者たち

## ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション2002 最優秀賞決定!!

### 大学生の部最優秀賞

白鷗大チーム

コドモ&コミュニティー

### 高校生部門

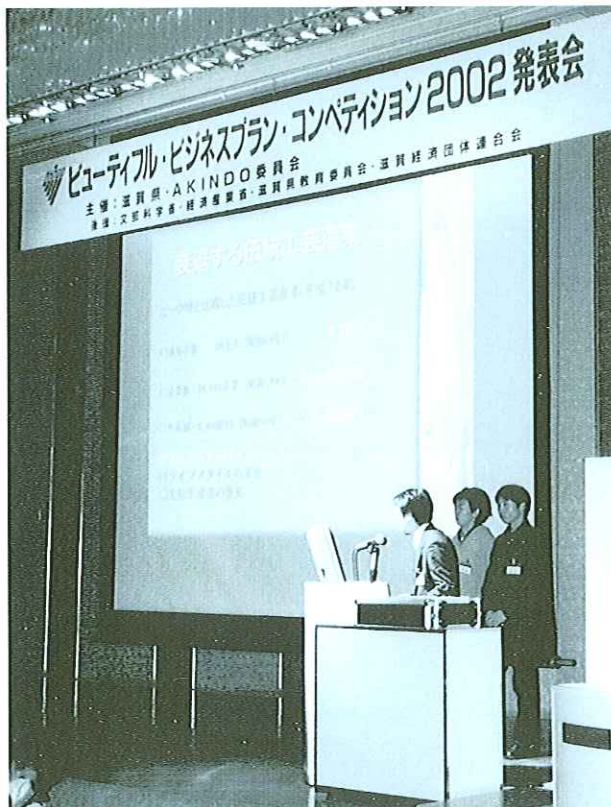
八幡商業高校

花鳥風月「近江水郷の杜」

昨年に続いて開催された高校生や大学生を対象としてビジネスプランを競う「ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション」は応募26チームの中から最終選考の残った8チームの発表が平成15年2月13日、近江八幡で行われ、審査の結果、大学生の部には、道徳や倫理、美学教育に重点を置いた塾づくり構想を披露した「コドモ&コミュニティー」(白鷗大学チーム)が、一方高校生部門では、地元近江八幡市の水郷や八幡堀を生かした地域開発の事業構想計画を披露した滋賀県立八幡商業高校の花鳥風月「近江水郷の杜」が最優秀に選ばれた。

本年は高校生の部ではとくに地元滋賀県立八幡商業高校が健闘し、最終選考では3チームの発表があった。なかには、琵琶湖が抱える「外来魚」問題をテーマにした作品などユニークな提案もあった。

本コンペは、近江商人の理念である「三方よし」を受け継いだ事業の展開をめざして開催し、今回は全国から大学生16チーム、高校生10チームの応募があった。最終審査では、8チームのプレゼンテーションや、事業計画のアドバイスを努めたメンターとの交流会なども併せて開催された。



プレゼンテーションの様子



国松善次滋賀県知事が表彰状と賞金を授与

# 最終選考に進んだ各チームの事業概要と評価

## 高校生の部「最優秀賞」

### 花鳥風月「近江水郷の杜」

(滋賀県立八幡商業高等学校)

**事業概要** 二十一世紀は水と環境の世紀。地域の生活を通じた観光ビジネスと環境の啓蒙活動を進められる「コミュニティ」の形成が事業目的。既存の川や水面を利用して、人工的に水路を造り、葦に囲まれた自然の中を手漕ぎの船で移動できる「コミュニティ」を作り、船着き場をベースにして、地元の人も共存できるショッピングモールや、日本の文化が発信できる工房の誘致を考える。

**評価** 地域資源をいかした「コミュニティ」づくりから新たな地域経済を発展させ、地域づくりとともに活性化を図ろうとするところに「三方よし」の精神が生きており、ミッション性が高い事業計画を若者がリーダーとなり、行政や経済界、NPOや市民が一体となり、地域運動として取り組むことを期待する。

## 大学生の部「最優秀賞」

### コトモノ&コミュニケーション(白鷺大学)

**事業概要** 小中学生を対象として「人間教育」に特化した塾。子ども達に「学校でも塾でも教えてくれない、本当に大切な知識を伝える事」をコンセプトとした。具体的には、哲学、道徳、倫理、美学、教養、文学、創作、表現、などを、現役

大学教授の特別授業も交えながら、「案外、じっくり」をモットーに、優しく伝えていきます。目的は、子ども達に豊かな人生を送ってもらう事です。教養豊かな優しい子どもが増えたら、私達、大人も未来に希望がもてます。

**評価** 「人間教育」に特化した学習の場づくりは大いに賛同でき、事業内容の精度も高く、メンバーの確保も行われ、実現可能性が高く、社会ニーズの高いビジネスプランである。関係者などへのヒアリング調査も十分行われており事業計画の精度が高く、また実施するためのメンバーも確保されており実現可能性が高い。

## 高校生の部「入賞作品」

### FOR(滋賀県立八幡商業高等学校)

**事業計画** 「ボランティア」に参加したいが、きっかけがないため、ボランティアを体験できる機会に恵まれない現状から、プチ・ボランティアを体験できる旅行を企画して販売する。ライフスタイルも変わり、旅行に対する需要が大きい、単なる観光ツアーに飽きたらず、生活観を変えるために体験型のツアーを望む顧客が多いので、限られた短い時間の中で国内外を問わず、プチ・ボランティアが体験できるツアー会社を企画した。

**評価** 個人として世界のために社会貢献をしたいという機会を支援ボランティア活動を通して提供しようとするビジネスプランのコンセプトは十分説得力がある。

## BOLD FISH

(滋賀県立八幡商業高等学校)

**事業計画** 全国の湖沼で外来魚が爆発的な勢いで増え、在来種の激減をもたらすなど深刻な環境問題になっている。この外来魚の駆除と有効利用の両立をはかることを目的として事業を計画した。具体的には、(1)イメージアップ作戦、(2)地域の事業者とのタイアップ、(3)養殖事業の三つを柱に問題解決をはかった。また、環境教育の一環としての学校給食の活用や、「リリース禁止」に対処する事業計画も盛り込み、地域に密着し、人と自然が共生できる事業を考えた。人間の手でできる環境保全の提案、持続的、発展的な環境改善ビジネスとしてこの事業を世に問う。

**評価** 多様な価値概念(環境・産業・趣味)が存在する難しい問題をテーマとして、これを解決しようとする姿勢は高く評価できる。琵琶湖の持続的な環境保全に取り組む熱い使命感がビジネスプランから感じられる。若者がリーダーとなり、地域や企業、行政などさまざまな人や団体を巻き込んだ県民運動となり、さらに全国規模の運動に発展することが期待される。

## 京かくれん舗(京都府立商業高校)

**事業概要** 場所としての空間(京町家)の他、すべての商品に京ブランドとして

生活感を感じてもらえる形で販売し、「衣・食・住」に合わせた業種が変化していく形で店舗を増やし、「京かくれん舗」というブランドを顧客の中に確立させる。インターネットを利用し、京ブランドの生活提案や京都伝統工芸若手デザイナー育成等の参加型ホームページを展開し、京ブランド企業全体の活性化を実現させる。

**評価** 日本の歴史的伝統工芸などをライフスタイルに活かす視点からサービス・ものづくりのサポートビジネスを構築する事業計画であり、二十一世紀型のビジネスプランは、市場・商材調査などフィールドワークが十分行われており、精度の高い実現可能なレベルの事業計画である。

## 大学生の部「入賞作品」

### ECCO(多摩大学)

**事業概要** ECCO(Earth Communicate Organization)は、「世界中の人たちが一つの家族と考えるような人と人、地域と

地域、社会と社会、国と国のネットワークを構築し、世界レベルのネットワークからよりよい世界を作ること」を旨とし、実際には、国内外のホームステイのコーディネートをはじめ、社会(企業や地域に対する)貢献認定の支援や対社会的弱者支援を行なう。子育て支援や家庭再生、伝統伝承といった社会的要請と体験型学習などを組み合わせ、家庭から社会的な問題解決を図ってゆくためのシステムを運営する組織として存在するECCOは、

NPO法人として「国境のないライフスタイル」の広がりを提案する。

**評価** 日本は成熟型の社会であるが、世界的には発展途上の社会が多くあり、そこでは多様な価値概念が存在しているが、それをホームステイによる体験を通して、自己の活性化をはかるとともに人との交流や社会貢献を行う事業計画の視点は評価できる。

## 天才工房

(横浜国立大学、明治大学、早稲田大学)

**事業概要** 二〇〇二年、高校生の就職内定率が過去最低を記録し、深刻な社会問題となっている。このような現代日本の劣悪な労働市場において、新たな雇用分野を開拓する伝統工芸の人材紹介業を提案。後継者不足に悩む伝統工芸産業、近年増加するものづくりに憧れる若者の雇用、日本の伝統の継承と保存。まさに三方よしの精神を忠実に実現し、まったく新しいビジネスを誕生させる。

**評価** 伝統工芸産業がもつ技術と文化を次世代に継承させようとするミッション性が極めて高い事業計画であり、日本が今、喫緊に対応しなければならぬ事業である。実際に工房を訪れヒアリング調査などを行い、後継者問題だけでなく特許、マーケティングなどのコンサルティング機能を備えたビジネスプランに仕上げた点が評価できる。

情報誌「三方よし」総集編を作成

# 『現代に生きる三方よし』

平成七年（一九九六）に創刊した情報誌「三方よし」は、近江商人の共通の理念をタイトルとし、先人の事績を紹介しつつも、現代社会の中にいきづく近江商人魂や三方よしの理念に焦点をあてた編集を心がけ、多くの方からのご支援をいただいていた。まだまだ近江商人が活躍した地域の紹介や文化的な活動などを報告したいと考えていたが、紙面の都合や発行回数制限などで十分な成果を見るまでには至らなかった。しかし新しい世紀へ移り変わる時機に開催した全国AKINDO会議や国際AKINDO会議などの開催で、三方よしの理念とともに近江商人に対する新しい評価を得たことを一応の成果と考え、今回情報誌「三方よし」の総集編として一冊の書籍にまとめることとなった。

以前よりバックナンバーを入手したいというご要請や、単行本として発行しないのかという希望をおよせいただいていたこともあり、今回の作成は永年のご愛読にお応えできたことと安堵している次第である。

ことさら、企業や社会全体の倫理感が厳しく問われている昨今、郷土の先人の精神文化が現代社会により多くの示唆をあたえているという現実をより一層波及できることと喜んでもいる。本情報誌で十分な任務を終えたとはいえないが、少しでも近江商人の精神文化を認識いただければ望外の喜びである。



A5判 248頁

## 近江商人関連書籍紹介

高島町の湖西中学教諭 駒井正一氏が上梓

### 日野商人 —隠れたる北関東での謎—

北関東での醸造業を展開した日野商人の実態を詳細な取材記事でまとめ、日野商人の事歴を紹介。近江商人と北関東での事件にも迫り、秩父事件の背景などにもふれている。また歴史上有名な石田梅岩や二宮金次郎と近江商人との関わりや記述など興味深い内容が盛り込まれている。(書店での販売は行っていない)

購入希望者は左記まで。

●申し込み先  
〒五〇一三三二 高島郡安曇川町北船木一九二四  
駒井正一  
TEL・FAX 〇七四〇三三〇六五八

## 日野商人

—隠れたる北関東での謎—

駒井正一

B6判 344頁  
頒価1,500円 (送料別)

### 本書の主な内容

- 序章 再認識される近江商人
- 第1章 近江商人の経営理念
- 第2章 近江商人のベンチャービジネス
- 第3章 現代に生きる「三方よし」の経営理念
- 第4章 現代に生きる近江商人魂
- 第5章 世界が認める「三方よし」の経営理念
- 第6章 近江商人活躍の舞台
- 第7章 近江商人と文化芸術
- 第8章 戦国武将と近江商人
- 附 属 近江商人関連書籍/近江商人の発祥と商法・理念/近江商人関係資料館案内

## てんびん棒

「近江商人」などの著作のある作家邦光史郎氏の提言によって、滋賀県では「近江商人」の理念を生かした産業おこしやまちづくりを展開する機運が高まり、平成三年には国際AKINDOフォーラムが開催され、近江商人の商法や理念を生かしたまちづくり・産業振興のシンポジウムが大々的に開催された。

かつて、近江商人は、世間から揶揄されたり、儲け主義一辺倒のがめつさだけが強調されていたが、現在では、「世間よし」という理念を持つた近江商人の理念こそが、今求められる企業の倫理観であるという認識が定着し、流通システムを構築した商人たちであったという評価が高まっている。十年余の事業展開の成果でもあらうと感慨深く思う次第である。

そして、翌平成四年には、この成果を継続的に、滋賀にプライドづくりをめざした運動とするべく滋賀県AKINDO委員会という、行政では珍しく英字表示の委員会が誕生した。その後はご承知のとおり、近江商人の顕彰事業、理念を生かした人材育成、先人ゆかりの地域や関係機関との交流事業などが実施されてきた。

ところが、華々しく立ち上がったAKINDO委員会も本年を限りで幕が引かれる。真の近江商人の倫理観が世界に認められようとしている時機に誠に残念なことである。昨年、近江商人嫌いの田原総一郎氏が「ソフトの時代の今こそ、情報戦術で生きてきた近江商人の知恵に学べ」というエールが県民に向けて行われた。組織が消滅しても本事業の遂行に携わった一人として、今後このエールにも応えるべき、新たな道筋をつくりながら、永続的な展開を行っていきたいと念じている。

この委員会は、行政主導とはいえ、(株)滋賀銀行や(株)平和堂らの民間企業の計り知れないご支援によって運営され、創刊以来、本情報誌を編集してきたAKINDO会議は、県内の経済人やまちづくり活動を展開していた若者で編成された民間の組織であった。結成当時の若者もすでに中堅という年代になったが、AKINDO事業に参画したメンバーは各地での活躍が目立つ。

長きにわたってのご愛読、ご支援を心より厚くお礼申し上げますと同時に今後ともAKINDO事業への格段のご協力をお願い申し上げます。

(AKINDO会議広報局)  
岩根順子